

調査研究事業報告書

| | |
|--------|--|
| 事業名 | 令和3年度後志教育研修センター調査研究事業報告会 |
| 主催者名 | 後志教育研修センター |
| 後援者名 | 北海道教育庁後志教育局 後志町村教育委員会協議会 倶知安町教育委員会 小樽市教育委員会 後志小中学校長会 小樽市校長会 後志小中学校教頭会 小樽市教頭会 後志教育研究会 後志へき地・複式教育研究連盟 後志社会教育主事会 |
| 実施日時 | 令和4年1月12日(水) 14:00～16:00 |
| 実施場所 | 倶知安町文化福祉センター公民館 中ホール |
| 対象及び人数 | 後志管内教員並びに教育関係者 合計57名 |
| 入場料金 | 無料 |
| 事業内容 | <p>(1)「学習指導に関する調査研究委員会」からの報告(4年次研究の2年目) 研究主題「授業力の向上と校内研究の活性化」 ～学びに向かう力の育成を通して～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究の柱と内容について 2 研修講座について 3 今年度の成果と課題 4 今後の方向性について <p>(2)「社会教育に関する調査研究委員会」からの報告(4年次研究の3年目) 研究主題「地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働」 ～地域の未来を担う自己肯定感・自己有用感の高い若年層の育成～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究のテーマとサブテーマについて 2 しりべしジュニアリーダーワークショップの経緯と事前研修について 3 それぞれのまちでの事業 4 しりべしジュニアリーダーワークショップの事後研修について |
| 事業成果 | <p>□事業内容(1)に係る成果 小中学校で全面実施されている学習指導要領の趣旨や方向性についての理解をより一層深め、主体的・対話的で深い学びの追究を展開してきた。2年次目の研究では、研修講座を活用して、1単位時間の課題解決型の授業づくりについて、説明により理解を深めた。その後、実際に指導案づくりを行ったことで、授業づくりのイメージをより明確にできた。また、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の13の視点を提示し「板書型指導案」と具体的な教師の手立てを提案できた。自分の授業実践を見直す「チェックリスト」を提案し、授業改善に有効なものとなり、管内各校のOJTに寄与できる研究を深めることができた。</p> <p>□事業内容(2)に係る成果 地域づくりの担い手育成は、行政と住民との連携・協働によって初めて達成されるものである。行政と住民の連携により進められる地域づくりの担い手育成の実際を学び、具体的な課題や実践の交流から、行政と住民の連携・協働による地域づくりの担い手育成について追究してきた。3年次目の研究では、児童生徒の自己肯定感、自己有用感を高めるために、地域学校協働活動本部、学校運営協議会が効果的に連携する仕組み作りについて追究してきた。管内13の市町村の事業を通して、中高生がお互いの活動を知り、共感し、認め合うことができ、社会教育行政の役割を明らかにすることができた。</p> |

調査研究事業報告会

令和三年度調査研究事業（学習指導、社会教育）報告

令和三年度 後志教育研修センター

期日 令和四年一月十二日（水）
会場 俱知安町文化福祉センター公民館中ホール



来賓挨拶 後志教育局局長 川端 香代子 様



開会式 主催者挨拶 所長 長谷川 誠



閉会式 主催者挨拶 副所長 渡邊 均



来賓の方々



司会 研修講座主事 太田 亙



調査研究委員会協力員の方々

学習指導に関する調査研究

研究主題『授業力の向上と校内研究の活性化』

～学びに向かう力の育成を通して～（4年次研究2年目）

社会教育に関する調査研究

研究主題『地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働』

～地域の未来を担う自己肯定感・自己有用感の高い若年層の育成～（4年次研究3年目）



学習指導研究委員会

研究委員長 亀井 孝志 所員

副委員長 鶴見 卓哉 所員



社会教育研究委員会

委員 佐野 英昭 所員

委員 浦中 龍一 所員

□参加者の意見や感想

1. 学習指導に関する調査研究について

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりや改善に向けた方策が、大変わかりやすかったです。自校でも今後、板書型指導案を活用しながら、特に全体交流コーディネートに重きをおいて、授業改善を行っていきたいです。
2. 授業改善は本校でも進めているが「学習指導の講座」はとても勉強になると思いました。次年度は係を参加させ、校内で還元させたいと思っています。
3. 授業づくりから授業改善の方法等確認できました。学級づくりも大切であることなど大変共感できました。一つ気になったのは、課題解決型の授業での課題は、導入で教師一児童の対話などでつくっていく場合もあるので、How課題には限らないのではないかと感じました。教師一児童や学級全体で対話が十分になされ、児童が本時の課題がしっかりと押さえられることが大事かと思いました。ただ、ピクトグラム等で表すのは面白いと思いました。
4. 校内研修の効果的な取組方について、大変参考になった。今後の自校での校内研修で生かしたい。
5. 「13の授業改善の視点」について是非、詳しく知りたいです。いただいた資料だと見にくいところが多くありました。
6. 特に、初任段階のことを考えた実践しやすい研究を進められている感じました。何か、困ったらセンター所員に聞いてみようと思える具体的な取組が豊富で、所員の皆さんの頑張りが伝わるものでした。
7. コロナ禍で実践がなかなかできないところ、多くの具体的事例を盛り込みながら、検証されてきたことが素晴らしいと思いました。失敗を恐れずに、改善方法を粘り強く学校全体で話し合い、進めていけるよう努力したいと思いました。
8. せっかくのPPのスライドですが、読めないのが残念です。もう少し、細かいところまで読みたいと思いました。
9. Society5.0を基に「質の高い授業実践」を追求した足跡が感じられました。管内共通のOJTに寄与するため、研究を深め続けてほしいです。ICT機器を活かした授業改善についても知りたいと思いました。
10. 子ども目線、子ども主体に取り組んでいるのが、一番重要なことです。子どものみならず、教師も常に実践後の振り返り(チェックリスト)を大切にしていることが素晴らしい。指導案バンクについては今後ももっと広めてほしい。次年度以降の研究も楽しみにしています。
11. 次年度のクラウドを使った指導案バンクの立ち上げが楽しみです、期待しています。

2. 社会教育に関する調査研究について

1. ジュニアリーダーワークショップを継続することで、地域の子どものリーダー性が育まれていくことを感じました。
2. 自己肯定感を高める実践は、学校現場でも取り組めるプログラム(短時間で)があると、どこかすき間の時間を生み出す価値が出てくると思いました。
3. 目的は違うのですが、幼小連携、小中連携等異校種交流の参考にもなりそうだなと思いながら、聴かせていただきました。

4. 川端局長が言われた通り、学校のみならず、地域の一員として社会教育に関わることで、自己有用感が高まるということの実証をされていた。今後も地域とともにリーダー育成を進める研究に期待しています。
5. 社会教育について校内研修で取り上げてみようかと思えます。
6. 他町村の事例を参考にして、CSの取組を充実できないか考えたいと思いました。
7. 札教大や星槎学園大学などにある児童生徒を対象とした自己啓発ボランティアサークルでも似た取組があるので、活用できるのではと思いました。
8. CSが立ち上がり、先生方にも興味を持って欲しいところですが、現在、先生方の話題の中心は「地域部活動」です。本町でも見通しが持てずに困っています。ジュニアリーダーの取組が各町村で進んでいることに驚きました。
9. 自己肯定感・自己有用感に社会教育の立場から着目して、各市町村で取り組まれていることを初めて知ることができました。子どもの自主性を生かしたとてもよい事業であるとともに、今後の変容を見るのが楽しみに感じています。
10. 成功も失敗も善し悪しだけにとらわれず、自己決定で行わせ、見守ること、積み重ねさせることを継続してほしいと思います。追跡して、5年後、10年後どのような成長をしていくのが示されるとよいです。

3. 調査研究事業報告会の持ち方について

1. 2年ぶりの参加でした。管内にしっかりと成果を広め、定着させるためにも大切な報告会だと考えます。今後、より様々な形での発信を楽しみにしています。
2. 一つ一つの取組を大変な思いをされながら、PPにまとめてこられたことを感じました。たくさんの具体例、活動はどれも貴重なものなので、工夫されながら続けていかれること期待しております。発表はとても明瞭でわかりやすかったです。
3. 冬休み中で参加しやすかったです。
4. コロナ禍ではありますが、所員の方々の熱意が伝わるのはやはり今回のような形式かと思いました。次年度以降も大変だとは思いますが、ご検討ください。
5. 天候、旅費等を考えると、オンラインでの実施でもよいのではないのでしょうか。
6. オンラインでの実施も必要かと思えます。大変勉強になりました。
7. 感染症対策から会の準備全般に対してお礼申し上げます。
8. 配布物もプロジェクターも文字がもっと大きくあれば参加者の理解も、所員の熱意や成果も更に深まり、伝わったと思います。日々、大変多忙な中、所長はじめ所員の皆様大変お疲れ様でした。
9. コロナ禍の中、後教研・ブロック教研の活動が止まっている中、研修センターの皆さんができる事をできる限りやっていただいた事に感謝しています。
10. コロナ禍の中で報告会を企画・運営していただいた役員、所員の先生方、ありがとうございました。